

学びやすく教えやすい教科書を追求しました

ポイント

1 主体的・対話的で深い学びを実現する紙面づくり



コトハ

三領域共通の学習の流れ

- 目標** 「目標」と「問いかけ」を確認し、見通しを持つ。「問いかけ」は、生徒の主体的な取り組みを促すために、やさしい文体に。
- 問いかけ**
- 言葉の力** 学習のポイントを「言葉の力」で確認。
- 振り返り** 「目標」や「言葉の力」を意識しながら振り返り、身につけた力を自分の言葉でまとめる。
- 対話** で学びを深める

郷土のよさを伝えよう

「地域の魅力」の紹介文

身近な地域に住む人々を対象に、話題の場所や食べ物、催し物、地域で活躍する人など、生活に密着した内容を伝える情報誌を、タウン誌とよぶ。

ここでは、タウン誌に載せる記事として、地域の魅力を紹介する文章を書いてみよう。記事を書くことを通して、多様な方法で材料を集め、より効果的に伝わる文章を書く力をつけよう。

- 目標
- 身近な地域の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを絞り込む。
 - 読み手を意識しながら、表現の効果を確かめて、文章を推敲する。
- 流れ
- 1 情報を集めて伝えたいことを絞り込む
 - 2 情報を集めて伝えたいことを絞り込む
 - 3 文章の構成を考える
 - 4 原稿を書き、推敲して仕上げる
 - 5 完成した紹介文を読み合う



2 情報を集めて伝えたいことを絞り込む

紹介したいことについて、書くための材料となる情報を収集しよう。

情報を集めるには、どのような方法があるだろうか。例えば、紹介したい対象に関する本やパンフレットを開けば、文章や写真などを通して多くの情報を得ることができる。また、インターネットを利用して、最新の情報が手に入る。更に、実際に現地に行き、地元の人にインタビューすれば、紹介したい対象をより身近に感じられるような情報が集まるだろう。

情報を集めながら、伝えたいことを絞り、「地域の魅力」としてアピールしたい内容を考えよう。



対話

ケブルカーの駅が急で、その傾斜角は日本一である。六分間て約百七十メートルの高差を駆け上がる。戦国時代にここを支配していた武將が、山の森林伐採を禁止した。そのため、現在も自然が残り、植物の種類が豊富である。その茶屋にあるまんじゅうは行列ができる人気商品。ふんわりとした外の生地と、甘い塩味のあんが絶品のパナッス。ケブルカーの駅が歩いて三分の所に、この園がある。親戚も遊びに来る人気のスポットだ。

近尾山について、本や雑誌、パンフレット調べた。さる園が特におもしろいから、この園をテーマにしよう。園の魅力を伝えるために、どうやって材料を集め、効果的な文章を仕上げていったらいいんだろう。

近尾山について、本や雑誌、パンフレット調べた。さる園が特におもしろいから、この園をテーマにしよう。園の魅力を伝えるために、どうやって材料を集め、効果的な文章を仕上げていったらいいんだろう。

3 文章の構成を考える

集めた情報の中から記事に必要なものを選び出し、文章の構成を考えよう。このとき、いろいろな情報をまとまりなく並べたことのないように、書きたいことの中心をしっかりと意識したい。中心となる情報とそれに関連する情報を取り出し、読み手に伝わりやすいように構成を工夫しよう。

構成	内容
導入	さる園の紹介
本文①	猿の社会の上下関係
本文②	どんな猿がボスになるのか、飼育員の川口さんか、母を聞いた、ボスが子供を助けたエピソード、未園のお話
結び	

手順と具体例が対応

5 完成した紹介文を読み合う

記事を書きあげたら、グループやクラスで読み合い、感想を伝え合おう。それぞれが書いた記事を、グループやクラスでまとめ、冊のタウン誌にするのもよい。



ふるさと

振り返り

材料を集め、効果的に伝える紹介文を書く学習を通して、どんな力が身についたか、その力をこれからの学習や生活でどう生かしていきたいかをまとめよう。

余話文の描写を取り入れて、さる園の様子を詳しく書いた。自分の体験を伝える文章や、物語を書くときにも生かせるかな。

上段は学習手順

下段は具体例

4 原稿を書き、推敲して仕上げる

読み手にとって分かりやすく、興味深い記事になるように考えながら、下書きをしよう。

下書きを終えたら、更に効果的に伝わるように推敲し、記事を仕上げよう。下書きをグループで読み合っ、気になったことを指し合い、推敲の参考にするのもよい。



京子
詩織
純平
理奈
優馬
高志

対話

さる園について、本や雑誌、パンフレット調べた。さる園が特におもしろいから、この園をテーマにしよう。園の魅力を伝えるために、どうやって材料を集め、効果的な文章を仕上げていったらいいんだろう。

さる園の園には、さる園がある。傾斜角が日本一のケブルカーの駅が、歩いて三分の所にいる。ここには、約七十頭の猿がいる。どの猿も個性豊かで、とても小さい。好きな果物は、バナナやモモ。

川口さんの話によると、余話文を入れてみたところ、ボスが助け出したことがあったそうだ。……

さる園の様子を、臨場感のある描写で表現した。猿たちの様子を、臨場感のある描写で表現した。猿たちの様子を、臨場感のある描写で表現した。



